

出張報告書

西出 真也
2014/1/27

- ・出張期間: 2014/1/13~1/24
- ・出張場所: オーストラリア(メルボルン、シドニー) ニュージーランド(クライストチャーチ)
- ・出張内容: 羊毛の研修(牧場視察、オークションセール、スライプ工場、洗毛スカーリング、化炭カーボナイズド)と市場視察

1	13	月		SQ615便で出発KIX-SIN
1	14	火	SQ207便SIN-MEL	JQ171MEL-CHC
1	15	水	FUHRMANN NZ社(以下FNZ)	Elders契約牧場 AHURIRI farm
1	16	木	H.DAWSON社同行 オークションハ	H.DAWSON社同行牧場 Darfield近郊
1	17	金	FNZ社同行 スライプ工場	FNZ社同行 洗毛工場 CWS
1	18	土	JQ140便/元廣戸部氏シドニー案内	張瀧氏と兄 夕食
1	19	日	市場調査	市場調査
1	20	月	VA0816便/Masurel社同行 VWP,NIKKE工場	Masurel社同行 オークションショーフロア
1	21	火	Masurel社同行 AWTI検査機関	Masurel社同行 AWHオークション
1	22	水	Masurel社同行 ジーロン E.P Robbinson工場	Landmark社Tedd氏 Merino farm
1	23	木	メルボルン市場調査 ビクリアマーケット	SQ228便 MEL-SIN
1	24	金	SQ618便 SIN-KIX	

1/15 AM 5:00 Christchurch空港着

Cathedral square(大聖堂広場)すぐ横のホテル

第一印象 震災から3年 未だに爪痕が生なましく多くがまだサラ地、若しくはヒビ割れ等耐震問題有で封鎖したまま。

大聖堂は正面部分が大きく崩壊。→現在もそのまま。

ゴースタウンと化している。

美しい街だっただけに早期の復旧が望まれる。



AM 9:00

FUHRMANN NZ社 Jhon Henderson氏 pickup

1978年 初来日以来 20回来日経験あり。

Elders 契約牧場へ。(Elders Roger Fuller氏 紹介による)

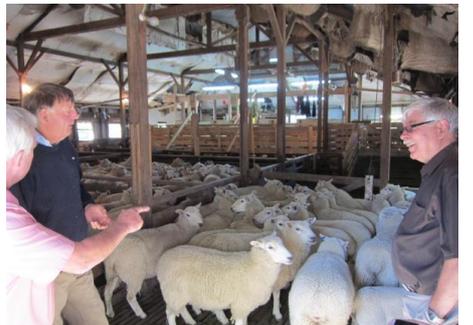
AHURIRI Farm(アフリリアーム) 場所別紙地図参照。

→オーナー=Peter Graham 1905年創業。5000匹を飼育。主にクロスブレッドのロムニー種。28mic~30mic

この日はクラッチングを行っていた。尻の周辺をバリカンで刈り取る。(皮膚の混入などがあると色ムラなどできて問題となる)

食肉用の羊も飼育しているとの事(ペレンデル種)

中にはヘリやライトプレーンを有し10,000匹を管理する牧場もある。



FUHRMANN NZ社 訪問

シュナイダーグループ

震災により元あったオフィスビルが被災。現在仮事務所にて営業。

今年4月には新ビルにテナントとして事務所移転予定。(PeterBorough付近)

現在中国15社と取引。男性5名女性4名。

Managing Director Peter Christen氏挨拶。



1/16 AM9:00

H.DAWSON社 Craig Smith氏 pickup

PGG wrightson オークション会場へ(Eldersとは別の場所)

ホリデーシーズン以外は毎週木曜日セール開催

1/16は北島がネイピア、南島がクライストチャーチ2か所同時開催。取引量によりどちらかになる事もある。

NZ羊毛総取引量の50%がオークション。残り50%は業者同士の相対取引となる。

メリノ種は全体の5%程度。



船積み Lytelton港から2週に1度

海上 15~18日

通関 3日



AM 11:00

H.DAWSON 現地ウールバイヤー Don Kars氏と合流

Darfield 近郊の提携牧場へ シャーリング(毛刈り)体験、シーブドッグ実演。

首、腹、脇等場所により別管理。

腹はVMが多いため色も変色が多い。洗毛しても黄色がかった事が多い。



シャーリング



マウントハット周辺



昼食をとった近くのゴルフ場レストハウス



左 Don Kars氏。右 Craig Smith氏。H.DAWSON社



Smith氏 趣味でのプライベート牧場 羊70匹



1/17 AM8:30

FUHRMANN NZ社 Stephen Finnie氏 pickup

AM 10:00 Ashburton SilverFernFarm社 スライプウール見学

100% NZ産の食用肉を加工する大企業。国内22か所プラント、海外7か国にオフィスを構え牛肉、ラム肉などを供給。
スライプウールはあくまで食肉加工工程での副産物。種別、レングスなどで大まかに分別して管理。



AM13:00

Timaru CWS社(Caverier Wool Scourers LTD)

Manager Tony Maurice氏に案内いただく。Wellington出身

南島ティマルにCanturbery工場と北島ネイピアに2工場を有する。

2004年に入れ替えた最新鋭のスクーリング機が2台あり10mic代のスーパーファインメリノから40mic代のクロスブレッドまた、モヘア、アルパカなども洗毛

24h 365日稼働。二台で1時間約140t、一週間で約1000t可能。一度に600ペール投入可能。プレス機も二台(動画参照)

NZ輸出用の90%がここで洗毛される。



夕食をとったTimaru近郊レストラン



真ん中 Maurice氏



真ん中左 Finnie氏。真ん中右 Maurice氏



※シドニーは別紙まとめる予定。よって割愛。

1/20 AM 11:00 Merbourne ホテル着

AM 12:00 SEGARD MASUREL社 Tony Cullinan氏 Pickup
16歳でWool業界に。今年64歳。

PM 13:00

VICTORIA WOOL PROCESSORS社 訪問

1990年創業 従業員40名 (創業者 Mr Kim Myungjin Managing Director)

2002年に拡張し現在のLaverton地区に移転。

現在工場名にはNIKKEの名前も連名で入っているが以前はPort Phillipに自身で工場をもっていたが港湾開発でその地が高く売れその後今はVWPの敷地内に間借りする形でスカーリングを行っている。

VICTORIA WOOL = カーボナイズング 化炭メイン
NIKKE = スカーリング 洗いのみ設備を移転してきて行っている。

化炭を行えるのは実質 VWP社とMichele社あと小さいがE.P ROBINSON社
しかしMichele社は中国に工場を移しているためVWPが唯一AUSでの
化炭を行えるのは実質 VWP社のみ。

Mr David Ritchie氏 に案内いただく。



洗い加工 ⇒ 希硫酸に通す ⇒ 高温でブロー(焼く事により)VMが炭化 ⇒ クラッシング(からまっているVMを潰し取る) ⇒ 乾燥

PM 15:00

ShowFloorへ (Elders, Landmark, AWH, Australian Wool Network などブローカーが事務所を構える常設展示場)
NZとは比べ物にならない大きさ。





NZメリも同会場。隔離して別管理。



2013年の最優秀メリノ 11.5mic



Masurel Tony Cullinan氏



1/21 AM9:00 pickup

AWTA (Australian Wool Testing Authority) オーストラリア羊毛検査機関 訪問

1956年羊毛産業の発展とともに中立的で正確なウールの検査機関の需要が生まれ、畜産農家からの支援もありオーストラリア政府公的機関としてその後、1982年に法人としてAWTAを設立。

現在は羊毛の原毛各検査に始まり、農産物の食品試験、食品安全試験、小麦、小麦粉に特化した試験、建築材や車フローリング材カーペット試験また中国と合弁でJinao社を設立しファブリックや生地、糸の検査など幅広い検査機関として活動している。

NZWTA ニュージーランド羊毛検査機関とも提携。

今回は時間限られていたので原毛検査に特化して見学。

オークション等で重要な指数となるYIELD MEASUREMENT(VMなどをすべて取り去ったクリーンウールの比率)の算出はここでなされる。

基本的には1000gのグリーズウール原毛を調査員が自らサンプルとして抽出。(農家に提出させると不正の可能性がある為)そこから150gずつx2 サンプルA、サンプルBとして通常のスカーリング、化炭の工程をミニサイズで行い夾雑物やラノリンを完全に除去。

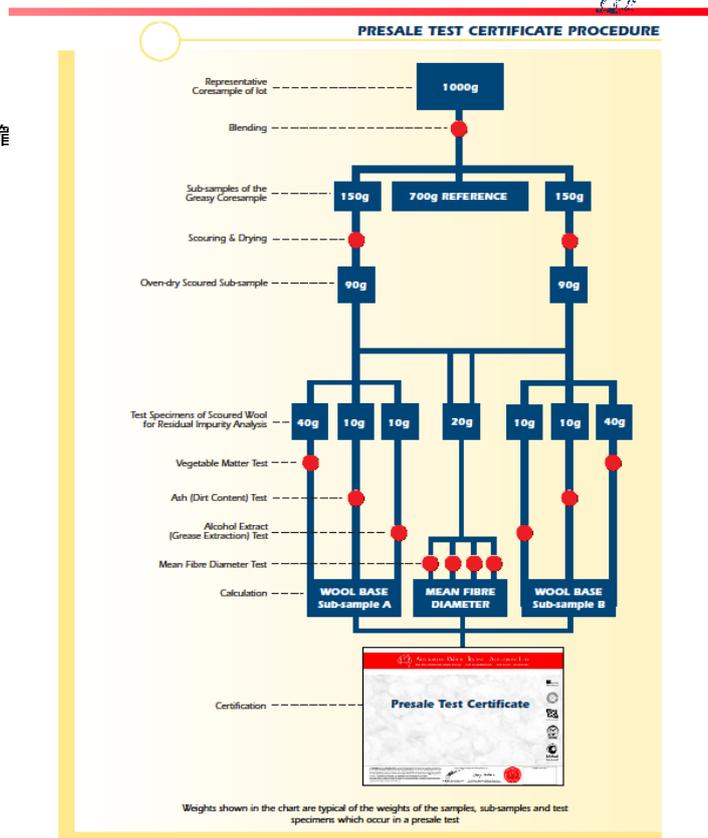
その工程から織度や夾雑物の種類、数量、割合、油分の含有率、を割出数値として算出。

残りの700gは万一再試験になった場合のキープサンプルとして保管

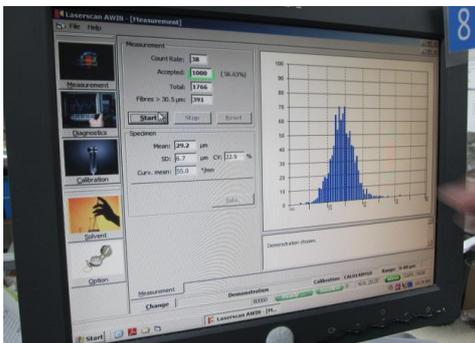
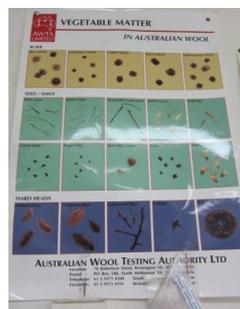
すべて出た段階で公的検査証としてクライアントに提出。

オークションのカタログにはすべてこの数値が掲載されている。

豪州、NZにはVMの中に潰すと種子がばらまかれるものも多いためどういったVMが入っているかは採毛された地方によっても変化があるとの事。



ATWA検査施設

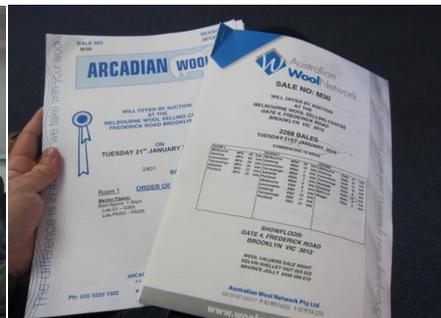


PM12:00

AWH ウールストアにてオークションセール開始

各ブローカーの主催で30を超えるバイヤーが二つのセールルームに分かれて行う。一つのルームでは、メリノ種中心のフリースや比較的レングスが長く、VMが少ないウオリティーの高いものが取引され、もう一方ではクロスブレッドのオドメンツやその他どちらかというカーディング用の端物などが取引されている。

各一つのセグメントの競りに費やされる時間は約6秒。目にもとまらぬ速さで進んでいく。



Masurel オフィス



左手前 = VVP Mr.Kim氏
 右手前 = Masurel Mr.Manion氏
 Mr.Peeks氏
 Masurel Mr.Cullinan氏

1/22 AM8:00 Tony Pickup

Geelong E.P. Robinson スカーリング、カーボナイジング工場へ

Geelongはかつて羊毛産業の中心的存在であったが博物館などを残しこういった小さいミルもかなり減少している。

設備も古くカーボナイジングの仕上がりの質としてはあまり良いものではない為Masurelとしては値段重視のインド向けや新興国向けの加工の時に使うなど使い分けをしているようだ。

今回もTonyがわざわざクオリティチェックの為にメルボルンから車で1時間かけ自ら赴いた格好。



Geelong ラム

織度18mic~19mic VM0.1~0.2(化炭が不要なレベル)

洗いのみで使えるものもあり、再度注目されてきているらしい。



PM12:00 LANDMARK社 Ted Wilson氏 紹介 メリノファーム訪問

Wilson氏肩書きが、Fine Wool Specialist

今回前日突然のメリノを見たいという要望に快くお受け下さった。アトムズ中川氏の紹介。

メルボルンから車で約50分。

Bacchus Marsh近郊 GREYSTONESファーム

アメリカの西部開拓時代を彷彿とさせる4453ヘクタールの広大な敷地に3000匹を放牧。

2008年ころは6000匹相当いたそうだが現在は減少。

シャーリングする人(シャーラー)を住み込みさせる為の住居も完備。



毛を掻き分けるとクランプしているのと白さが良く分かる。



真ん中 = Ted Wilson氏
左 = Leigh Harrison氏 牧場管理者



メルボルン街並



フリンダーレーン付近



サザンクロス駅



<総括>

まず今回豪州、NZを訪れた事によって話で聞いているだけであった羊毛の加工工程を生で見ることによって実際にどういうプロセスを経てどういった業者、どういった手順を踏んで出荷されているのが明確にわかり勉強になった。

話で豪州、NZでの羊頭数の減少など羊毛産業界時代の衰退の話は聞いていたが、実際にこちらになると確かに減少はしているのであろうがやはりそこは羊毛の本場オークションやスカーリングの規模を見ると巨大な施設で大きなロットを生産、加工しているという印象であった。

しかしながら、現地のローカルバイヤー等と話しているとピーク時から考えると大きく減少しているという話と行きつり感や若手のなり手が少ない実情をこぼす事も多かったので日本での羊毛需要の減少と比例してこちらでもそういった事は肌で感じられるレベルにきているようだ。

H.DAWSONのDon KarsとCraig Smithと話しているときに印象深かった一文が、やはり羊毛産業界の将来を考えると何か”Something Innovative stuff”(革新的な商品若しくは加工)が必要だ。

と熱く語っていた。

反面、最前線で見ている彼らはウールの持つポテンシャルは高く必要とされる部分はまだまだ今後の可能性はまだあると考えているようであった。何か新たなアイデアやチャレンジには快く協力するというメールを後日もらい彼ら自身も可能性を探っていると実感した。

羊毛としての特徴という面で見ると以前ブランドとして確立しつつあったタスマニアウールなどを例にとり話を聞いたが以前は織度が際立っていた為それを看板にできたが今は改良が進みクロスブレッドでも同レベルの織度は出せるようになり強いキャラクターを出せなくなった。

ただし、タスマニアのクリーンで汚れないイメージは継続してありナチュラルさを出して売り出す事は現在もしているがそれだけでは弱いとの事だった。2010年に英国チャールズ皇太子の提唱、後援で始まったキャンペーン・フォー・ウールという活動があってH.DAWSONも参加している。

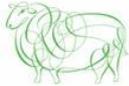
消費者にウールのユニークで、ナチュラルで耐久性の高い特性を伝える世界的なキャンペーン。世界の牧羊業者、ファッションデザイナー、小売店、製造会社、職人、インテリアデザイナーなどで構成されるコミュニティー間でコラボレーションを行う事で贅沢なファインメリノのニットから耐火性のある断熱ウールの多様な数限りない用途を消費者に啓蒙していくプログラム。

2010年の開始以来、キャンペーン・フォー・ウールは世界的な規模で新たなウールの需要の開拓を行っており、羊毛の価格を3倍にまで押し上げてきたそれと共に新たな使用や加工についても論議が交わされている。

毎年各地で開催されるウールウィークでは1週間にわたりイベントやワークショップが行われる。

<http://www.campaignforwool.jp/#sthash.kyCSWa9s.dpuf>

こういったロゴを作りメールに添付したりし啓蒙をはかっている。



THE CAMPAIGN FOR WOOL
BETWEEN THE PRINCE OF WALES

ニュージーランドはクライストチャーチのみで震災の復興が未完であったためなんとも言えないが、

オーストラリアに関してはメルボルン、シドニーともに購買意欲という点については旺盛でいいものには惜しまず使うという印象。

豪ドルも95円前後で推移し日本人にとっては余計感じるのだろうが物価は高い。15%のTAXと平均1400円前後の最低賃金も影響してか外食等は極めて高い印象。空港の朝食で2000円。普通にディナーで食べ呑みすると軽く1万円はいくと考えられる。

やはりユニオン(労働組合)の力が強く主張を全面に出す労働文化も影響あるのかもしれない。

シドニー、メルボルン共にここ数年住みたい都市世界ランク10位には必ず入ってきている人気都市であるので地価も継続して上がっている。

もう一点印象深かったのは中国経済、文化の浸食。英語のルビは必ず中国語。中華料理屋もあふれている。

今まで永住ビザ取得が比較的緩くカウンティング(会計学)専攻ただけで永住ビザが発行された時代もありそこで中国人が流れ込んだ。

現在は厳しくなったが豪銀行に8000万円の資産を入れれば実質永住ビザが手に入る実情もあり中国とつながりはより強くなってきているようだ。

中国経済と切っても切り離せない豪経済事情と中国コミュニティとの連携を持てばどんな業界でもチャンスが広がる事実を知った。